岐阜市立岩野田北小学校　学校だより　**せんだんの木**

いじめについて考える日

令和７年７月４日　　校長　各務　至

なかまの痛みを感じることのできる人に

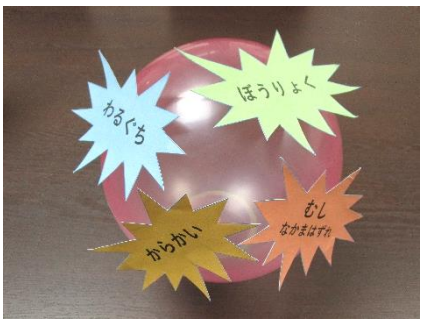
７月３日（木）は「いじめについて考える日」として、全校集会や学級活動にて、いじめについて向き合いました。その様子のいったんを紹介いたしますので、ご家庭や地域でも話題にしていただけますと幸いです。

１　全校集会（校長の話）一部要約

学校では、いろんなあいさつに出会います。おはようございます。こんにちは。さようなら。お願いします。ありがとうございました。

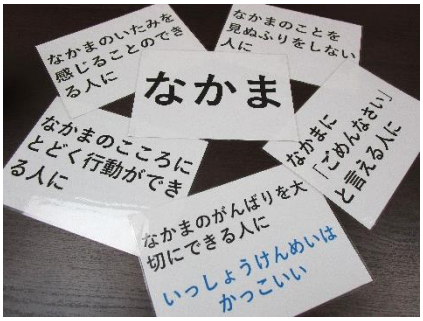
元気よくあいさつをする子、立ち止まっておじぎをする子、手を振る子、相手より先にあいさつをしようとする子。おかげで、こころがさわやかになります。みなさん、あいさつは得意ですか。苦手で、心の中でつぶやいているあいさつも、小さく会釈するあいさつも、次こそは声を出そうと思っていることも OK です。なかまを思っている気持ちがあれば、それは伝わります。それが大切です。

「なかま」という言葉、それは全校のみんなのことです。グループが違っても「なかま」です。クラスや学年が違っても「なかま」です。あまり話したことがない子も「なかま」です。みんなが「なかま」です。私たちは、同じ場所で、同じ時間を過ごしている大切な「なかま」です。



みなさんは「なかま」を大切にしているでしょうか。傷つけたりはしていないでしょうか。これは、こころといじめのとげです。「悪口、からかい、むし、なかまはずれ、ぼうりょく」のとげ。いじめられた人のこころはとげが刺さって痛いのです。困って、悩んで、苦しんで、学校に来られなくなったりすることもあるのです。刺さり方がひどいと、自ら命を絶ってしまうこともあります。岐阜市でも６年前の７月に起きてしまったのです。その子はどれだけ苦しかったことでしょうか。今日は、そのことを胸に置きながら、話を聞き考えてほしいのです。

とげが刺さらないようにしたいですし、刺さっても抜けるようにしたい。でも、抜けても刺さった記憶はずっと残り、忘れられません。だから、



なかまの痛みを感じることのできる人に

自分だったら平気かどうか考える。自分が平気でも「なかま」は平気ではないこともありますね。

なかまを見ぬふりをしない人に

見ていることもつらいですが、何もしないと、いじめる側にいることになる場合もあります。

なかまに「ごめんなさい。」と言える人に

勇気がいりますが、この一言で、お互いの関係がよくなったことを、これまでたくさん見ました。

２　学級での取り組み

それぞれの学級では、子供の心に響くことを大切にし、物語の読み聞かせをしたり、映像を通して実際にいじめに苦しんだ生徒の声を聴いたり、全校集会での話について学級の仲間と話し合ったりしました。そうやって、具体的にいじめに関わる場面や行動をイメージしつつ、仲間を思う気持ちやこころがあたたかくなる言葉を考えたりしながら、いじめについて深く考えていきました。取組の最後では、学級ごとに「笑顔せんげん」を決め、これから頑張っていきたいことを考えました。

子供の声

・思いやりや人の気持ちを分かるような心を、もっと強くしていきたいです。
・ふわふわ言葉の「ありがとう」を言えました。口には出さないけれど、心の中でふわふわ言葉を言っていることがあります。次は声に出して言いたいです。
・今までは、楽しくなってちくちく言葉を使ってしまうことがあったけど、ふわふわ言葉をつかっていくようにしたいです。
・発表している人の話を、自分の手を止めてしっかりと聞こうと思います。
・これからは、ありがとうをたくさん言い、ほかほか言葉も自然に増えるようにしていきたいです。
・ありがとうと言わなくては、と思うのではなく、自然にありがとうと言えるようになりたいし、ありがとうと言われることをしたいです。
・重点的に取り組む習慣が終わっても、ありがとうを１日に何回も言えるように心がけたいです。

今回の取組を通して、私たち大人が子供たちにあたたかい眼差しを向けつつ、悲しい思いをする子供がないようにしたいところです。